

平成20年 仕事始め式長塚市長あいさつ要旨

とき 平成20年1月4日(金)

ところ 伊勢原市役所2C会議室

はじめに

皆さん、明けましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、ご家族お揃いで、平成20年の年明けをお迎えになられたことと思います。

また、本日の仕事始め式には、石川議長、前澤副議長のご臨席を賜りました。お忙しい中、誠にありがとうございます。

平成20年につきましても引き続き厳しい財政状況が続くと予想されますが、市民サービスの向上のため、また円滑に市政を運営していくため、引き続き市議会のご理解、ご協力を賜らなければなりません。本年もよろしく願いいたします。

また、消防や環境美化センターの職員につきましては、年末年始にも関わらず、業務に従事していただきました。大変ご苦勞様です。お陰様で、こうして無事、新しい年を迎えることができました。

20年の市政運営など -21プラン-

さて、職員の皆さんはそれぞれに今年の目標を掲げられていることと思いますが、少しお時間をいただきまして、新年のスタートに当たり、市政運営にあたって私の基本的な考え方をお話しさせていただきます。

皆さんには、伊勢原市の置かれている現状、そして、「今」という時期の重要性を認識していただきたいと思います。

昨年の仕事始め式、また仕事納め式でも申し上げましたが、私がこの職に就任以来一貫して申し上げてきました「元気な伊勢原・ふるさとづくり」の実現に向けて、本年はその集大成の年、これまで育ててきた木に、花を咲かせ、実を成らせる年であると考えています。

折しも、今年は今後5年間のまちづくりの方向性を定める「いせはら21プラン・後期基本計画」のスタートの年でもあります。

これまで着実に積み上げてきた施策の成果を、行政評価制度の結果を踏まえ客観的に判断し、今後5カ年の市政運営の方向性を明らかにする年でもあります。

言うまでもなく、将来の伊勢原市をよりよい姿にしていくためには、職員一人ひとりの力が不可欠です。

ここにお集まりの幹部職員の皆さんが、これまで培ってきた様々な行政経験をそれぞれの立場、職場で生かしていただくことを、まずお願いします。

後期基本計画の策定にあたって、「市民が今、何を考えているか」、「市民が今、何を求めているか」という視点から、市民合意を図りながら策定を進めてきました。と同時に「将来の伊勢原にとって今、成すべきことは何か」という視点から、行政の専門家である皆さんの英知を結集してまいりました。

20年の市政運営など ―改革・協働―

既に十分ご承知のことと思いますが、平成20年度は一時期の危機的な財政状況からは脱しつつあるものの、義務的経費の増大による財政の圧迫等、依然として厳しい状況が予想されることから、引き続き、市政全般にわたり「改革」を推進していく必要があります。

現在、「次期行財政改革推進計画」の策定を進めていますが、「現行の計画」の成果を踏まえ、継続した取り組みが必要であると考えています。

職員の皆さんには、常に「改革」の視点を持って、それぞれの立場で取り組むとともに、全庁的に対応する必要がある事項については、様々な場面、方法で、私に積極的に提案していただくようお願いします。

また、私の行政運営の理念の一つでもあります「協働」を、さらに推し進めていただきたいと思います。

先ほども申し上げましたが、「市民が考えていること、求めていること」を敏感に感じ取り、「市民を主役とした行政運営」、このことを常に意識しながら仕事をしていただきたいと思います。

大変厳しい財政状況の下で、これまでの行政が中心となったまちづくりの手法では、本当の意味の市民生活の向上を実現できないことは、財政破綻を招いている他の自治体の例を見ても、既に明白となっています。

これまで市民が入り込めなかった分野、領域にまで、できる限り広範囲にわたって市民と協働する、このことが今まで以上に重要になってきていると考えています

20年の市政運営など ―危機意識をもつ―

市長就任以来3年半が経過する中で、日頃感じていることを申し上げます。まず目に見える成果をあげてほしいということです。予算をかけなくても、創意と工夫で取り組みれば、成果を挙げられることは多々あります。

また、「できない理由ではなく、できる検討をする」ような発想の転換をお願いしたいと思います。

また、「常に危機意識を持つ」ということが重要です。

危機意識と言っても、むやみに不安感をあおるものではありません。常に前向きに、健全な危機意識を持っていただきたいと思います。

職員の方一人ひとりが危機管理に対する意識を高め、「最悪の事態に備え、ピンチをチャンスに変えていく」、こうした心構えと準備を持って日頃からそれぞれの業務に取り組んでいただきたい。

伊勢原市、そして伊勢原市役所の置かれた状況を常に意識し、職員一人ひとりがその時々で最善と思う行動をとる。そうした態度が、まさに危機意識を持つということではないでしょうか。

むすび

常日頃から、地方自治体の置かれた現状、社会全般の動き、そういった大きな潮流、トレ

ンドをしっかりとつかんで、一緒になってこの困難な時代を乗り越っていきたいと思います。

いよいよ仕事の始まりです。

大変多忙な、そして盛りだくさんな1年になるとと思いますが、何を進めるにしても心と体の健康が大切です。

また、今、健康だと思っている人も自分の健康に過信することなく、常に健康維持に注意を払い、ベストコンディションで仕事に臨んでいただきたいと思います。

今年1年が伊勢原市にとって、また皆さんにとって明るい1年となりますよう、皆様のご協力をお願いして、新年のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。